



第31回例会

平成19年2月21日(水)
サンパレス福島

本日のプログラム

- 1 開会点鐘
- 2 ロータリーソング「奉仕の理想」
- 3 四つのテスト
- 4 来訪者の紹介と会長挨拶
- 5 臨時クラブ総会
新入会員承認の件(渡辺あゆ美様)
- 6 ゲストスピーチ
阿部光祐様(福島21ロータリークラブ会員)
- 7 各委員会報告
- 8 閉会点鐘

会長挨拶

齋藤 ミヨ会長



皆さんこんにちは。一週お休みとなっただけですが久々にお会いしたような感じが致します。

先日富田パスト会長のスピーチの奉仕の理想の10ヶ条の1条に、ロータリーの例会に出席しないと落ち着かなく、何か忘れ物をしたと感じませんか、とありました。そんな心境を感じました。

今月は世界理解月間となっており、国際奉仕委員会による台湾国際研修旅行が11日～15日、5日間参加して参りました。台北西北ロータリークラブにメークアップすることができ、とてもなごやかな例会で歓迎をしていただきました。このおみやげ話は次週にゆっくり時間をとってお話したいと思います。

さて、世界理解月間ということで、このことにつき少々お話致します。ロータリーは、1905年(明治38年) 2月23日 4名で、シカゴの小さな事務所で誕生致しました。ロータリーとは集会を各自の事務所持ち廻りで順番に開くことから名づけられたものです。国境を越え今世界168ヶ国に達しています。この月間中世界平和に不可欠なものとして、理解と善意を強調されております。

本日はこれも踏まえて福島21ロータリークラブ会員の阿部光裕さんをゲストスピーカーとしてお願いしております。楽しみに拝聴いただきたいと思っております。

ゲストスピーチ

阿部光祐様(福島21ロータリークラブ会員)



こんにちは、福島21RCの阿部光裕です。お春地藏の寺・常円寺の住職です。今日は親クラブの南RCさんからゲストスピーチにお声を掛けていただきまして嬉しく思います。

さて、今日は「水前寺版 般若心経 『365歩のマーチ』」についてお話をさせていただきます。

「般若心経」は、日本で最もポピュラーなお経と言えるでしょう。このお経と水前寺さんが歌う「365歩～」の云わんとしている事がよく似ているのです。この



歌を書いたのは星野哲郎という方です。星野さんは現在、日本作詞家協会の会長で皆さんもご存知の歌をたくさん書いていらっしゃいます。都はるみの「アンコ椿は恋の花」ですとか、北島三郎の「函館の女」、「男はつらいよ」もそうですし、「昔の名前で出ています」や「兄弟舟」もそうです。この星野さんが書かれる歌はどれも素晴らしいのですが、その中でも最も元気を与えてくれるのがこの歌でしょう。実は「般若心経」も人生に元気を与えてくれるお経なのです。

このふたつには、人生における共通の前提条件があります。それは、「人生は思い通りにいかない」ということです。むしろ、思い通りにいかせたいという人間の思い上がりを諷めていると言った方がいいかもしれません。

仏教語に「無常」という言葉があります。「ああ無情」の「情けが無い」の方ではなくて、「常が無い」の無常です。私はこれを「思い通りにいかない」と訳します。般若心経は、この無常観を前提として人のものの見方や捉え方に過ちがあつて、その過ちに気づいていくことが幸せの道につながると説きます。「思い通りにいかない人生だけれど、それが解れば人生変わるよ」と言うのです。

「365歩～」の一番の歌詞にはこうあります。「人生はワンツープンチ 汗かきベソかき歩こうよ」つまり「明るく楽しく歩こうよ」とは出てきません。これは、おそらく星野さん自身が無常を強く感じることに出会ったからこそ生まれてきた言葉でしょう。そして、一番の最後に「あなたのつけた足跡にゃ 綺麗な花が咲くでしょう」と歌います。「人生の結果を気にしないでひたむきに生きることをしなさい。結果は後からついてくるから大丈夫」と言うのです。



そして「腕を振って足を上げてワンツープンチ 休まないで歩け」と励まします。

今日、こうして皆さんと出会って時を同じく過ごしたということはもう私のいのちとみなさんのいのちを分け合ったということですから、どうかそれがいい花を咲かせてくれることを祈って拙い話を終わります。ありがとうございました。

今月・来月のプログラム

- 3月7日(水) クラブ協議会
- 3月14日(水) ゲストスピーチ
国交省福島河川国道事務所
事業対策官 遠藤隆一様
- 3月21日(水) 休会(春分の日)
- 3月25日(日) 東北第一区親善囲碁大会
(ホスト：福島21RC 常円寺)
- 3月28日(水) 創立記念夜間例会 18:00～

編集担当 高橋正一